

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

「大学ICTのきょうと明日」を考える

大学ICT推進協議会2016年度年次大会参加記



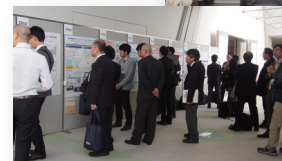
2016年12月14日から16日にかけて京都国際会館で開催された大学ICT推進協議会2016年度年次大会にブース出展を行い、教材開発センターの活動を紹介しました。ブースでは、2016年度秋に開講したMOOC「味と匂いの科学技術」をはじめとして、教材開発センターでこれまで開発してきた電子教材、映像教材を多くの方に実際にご覧いただきました。今回の年次大会展示では、大学関係ブースが一箇所にまとまっていたこともあり、大学内で情報通信技術を活用



した教育改善に取り組んでいる他大学の方々と、例年にもまして多くの情報交換をすることができました。

また、全体会ではEDUCAUSEの会長兼CEOのJohn O'Brien博士、本学の安浦寛人先生による基調講演と、「大学ICTのきょうと明日」と題したパネル討論が行われ、現在の高等教育におけるICT分野の課題と可能性に関する議論を聞くことができました。

edXやCourseraなどのMOOCが話題になってから、はや5年が経とうとしています。教材開発センターでもこの3年間で4本の講座を開講しました。また、他大学の発表でも、この数年のICTを活用した教育活動を総括し、今後を展望する発表が見受けられました。近年のICTの進歩は著しく、それまで不可能だったことが、どんどん実現されている状況にあります。一方で、大学教育をよりよくするために、ICTをどう使うかを問い直し、また効果を検証していくことは、常に課題であると改めて実感しました。教育・教材制作の現場から考え、取り組みを続けていきたいと思います。 【谷澤 亜里 助教】



開催概要 ▶ <https://axies.jp/ja/conf/conf2016>



Q-Conference 2016参加報告

2016年12月10日に、中村学園大学で開催されたQ-conference 2016のポスターセッションに今年も参加し、ビデオ制作に関する取り組みを中心に説明を行いました。

会場では、2016年秋に開講したMOOC講座「味と匂いの科学技術」を視聴していただき、立ち寄られた方の多くに、MOOCの魅力を感じていただけました。また、来年度開講予定のコンテンツに期待するお声もいただけたので、より良いコンテンツを作ろうという思いが湧いてきました。

代表的研究者紹介ビデオの制作についても、「面白そう、子どもに見せたい」という感想をいただけた。こちらも好評でした。来年度には公開予定ですので、「この紹介ビデオを見て九大を進路に選んだ」と言ってもらえるようなビデオを制作していきたいです。



【森 淳也(テクニカルスタッフ)】

VR・ARを利用した鴻臚館でのフィールドワーク

九州大学基幹教育の総合科目「Mobile Application Development Tutorials」の講義の中で、学生の方々に平安時代の鴻臚館の様子をVR (Virtual Reality)やAR (Augmented Reality)で体験できるモバイルアプリを開発してもらいました。この講義は、PBL (Project-based Learning)形式の講義です。2016年12月17日に、3週間ほどかけて各自で開発したアプリを鴻臚館跡で起動し、平安時代の鴻臚館の様子をVRやARで体験しました。



▲鴻臚館で説明を受ける様子

同じような内容の講義を九州造形短期大学の学生の方々も受けており、当日は各大学の学生同士で、各自で開発したアプリを交換したりしながら大学間での交流も行いました。

また、現地では、福岡市役所の方々から鴻臚館についての講義を受けました。今回のフィールドワークで得たことを活かして、今後の講義でのモバイルアプリ開発に繋げていく予定です。このプロジェクトは、「福岡城・鴻臚館を活かした観光都市戦略事業」の一環で行われており、福岡市経済観光文化局文化財部や特定非営利活動法人 福岡城市民の会の方々にもご協力いただきました。

【金子 晃介 准教授(協力教員)】



2D/3D 教材開発システムの紹介 ～ vol.2～

vol.2 光学式モーションキャプチャー装置

この装置は、人や物体の「動き」をデジタルデータとして生成します。赤外線の反射を利用して計測するために、対象物の計測したい複数の



部位に赤外線反射マーカを取り付けます。位置を正確に計測するためには、各部位の反射光を多くの場



所から捉える必要があるため、対象物の周りを18台のカメラで取り囲みます。複数のカメラが捉えた反射光から各部位の位置を専用PCで計算し、すべての部位の位置データを集めることで、その時点における人の姿勢や対象物の形を求めることができます。それを適当な時間区間で集めれば人や物体の「動き」データとなります。

「動き」データは、CGアニメーション制作の他、スポーツ科学における選手の動き解析等で利用することが出来ます。是非、ご活用下さい。

▼教材開発センターでは、下記の機材を貸し出しています。
先生方の講義・研究資料の作成や講義の収録にお使いください。

【岡田 義広 教授(教材開発センター長)】

～教材開発支援機材システムの貸し出しについて～

お問い合わせ、お申込みフォームはこちらから

▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply

- ① デジタル顕微鏡 ② 光学式モーションキャプチャー装置 ③ 3D スキャナー
④ 3D プリンター ⑤ ハイスピードカメラ ⑥ 視線追尾装置 ⑦ 講義収録配信システム

九州大学のMOOC 情報にアクセスしよう！

JMOOCのホームページが、2016年秋にリニューアルし、デザイン性や機能が強化され、提供講座の一覧がより見やすく、検索しやすくなりました。九州大学の講座情報は日本語と英語で行なわれ、現在まで制作・開講した4講座のコースカード、プロモーション・ビデオ、シラバスが紹介されています。

九州大学のホームページともリンクがあり、九州大学の社会的活動に、さらに関心を寄せていただけるようになりました。

教材開発センターでは毎年MOOCを開発しています。こちらのサイトを見てMOOCにご興味を持たれた方は、来年度の新講座をご受講してみたいかがでしょうか。



ダイレクトアクセスはこちら

<https://www.jmooc.jp/providers/kyushu-u/>

【安西 弥生(准教授)】

FD 電子教材著作権講習会を開催しました



12月7日、文学部FD委員会からのご依頼により、人文科学研究院の教員を対象に電子教材著作権講習会を開催しました。事前にご要望いただいた文学部特有の内容を含め、資史料・美術品等の画像の取り扱いや、音楽・語学教材等の音源を含む教材を作成する際の問題点や注意事項について解説しました。日頃配慮していても、より一層注意が必要だと認識する良い機会になったとの感想をいただきました。

12月20日には、定例の電子教材著作権講習会を伊都、箱崎、馬出の3キャンパスにて開催しました。こちらは、教職員だけではなく、協調学習など学習資料をウェブで共有している大学院生・学部生にも参加いただいています。

来年度も引き続き開催しますので、ぜひご参加ください。部門・部局からのご依頼もお待ちしております。

FD講習会依頼フォームや講習会資料はこちら ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/copyright_info

【河野 由起子(テクニカルスタッフ)】